

事業評価調書

◎基本情報

年度		令和5年度		会計コード		10		一般会計		事業コード		37259		
事業名		篠路駅周辺地区まちづくり推進費												
評価担当課		所 属		政)都市計画部 事業推進課						電話番号		011-211-2706		
施策名		「地域交流拠点」では、商業・サービス機能や行政機能など多様な												
アクションプラン		● 対象 ○ 対象外												
事業の性質		○ 経常経費 ● 臨時的経費						○ 内部管理		○ 法定経費		○ 指定管理費		
		○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ○ その他												
事業内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)		篠路駅周辺地区は、令和4年度に策定された「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」において地域交流拠点のひとつとして位置付けられている北区北部の重要な地区であるが、横新道の慢性的な交通渋滞のほか、JR札沼線による東西分断、駅東側の社会基盤の脆弱性などといった社会的課題を抱えており、その改善に向け、関係部局において、土地区画整理事業、鉄道高架事業、周辺道路整備事業といった社会基盤整備を進めているところである。 また、令和5年2月には「篠路駅周辺地区まちづくり計画」(以下「まちづくり計画」)を策定し、低未利用地の利活用と地域主体のまちづくり活動の方向性・展開を示している。											
	事業内容(何を実施し)		【土地利用方策の検討】 低未利用地を活用し地域交流拠点にふさわしい機能を集積することにより、まちづくり計画に定めた土地利用の実現を目指している。 令和5年度は、機能誘導に必要な都市計画の変更手続きを行ったほか、サウンディング型市場調査を実施し、現時点における開発需要を確認した。また、民間委託により、実現可能性のある土地利用案を検討し、採算性等に係る評価・検証を実施した。その他、用地確定測量を実施し、低未利用市有地の形状や面積を確定した。 【地域主体のまちづくり活動支援】 まちづくり計画では、土地利用方策の検討と合わせ、地域の多様な担い手が主体となったまちづくり活動体制の構築を目指している。 令和5年度は、令和4年度から継続開催している地域会議の運営補助及びその参加者が主体となり具体的な取組が実現されるよう民間委託により支援を行った。その結果、地域会議を3回開催し、具体的な取組・イベントを2件実施することができた。 ①「篠路まち歩き 藍LOVEしのろ！！～篠路のまち・歴史を知ろう！～」 ②「篠路東口駅前フェス」											
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)		まちづくりの基本理念である「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」を踏まえながら、人口減少・高齢化等の社会情勢に対応した持続可能な地域社会の形成を目指す。											
	他都市の状況		政令市をはじめとする多くの自治体において、拠点エリアへ機能集積を進めるまちづくりが展開されている。また、「市街地整備2.0(国土交通省)」においては、「公民連携でビジョンを共有し、多様な手法を組み合わせ、価値・持続性を高める複合的更新」への転換が必要とされており、全国の各都市で、エリアマネジメント活動等が拡大している。											
	市民参加の実施		■ 企画 ■ 実施 ■ 評価 □ 対象外											
	令和4年度決算額		9,463 千円		うち特定財源		0 千円		正規職員業務量		2.3 人工			
令和5年度予算額		19,000 千円		うち特定財源		0 千円		正規職員業務量		2.25 人工				
令和5年度決算額		15,790 千円		うち特定財源		0 千円		正規職員業務量		2.25 人工				
令和6年度予算額		16,000 千円		うち特定財源		0 千円		正規職員業務量		2.05 人工				
指標	アウトプット活動指標1		低未利用地の利活用検討等による土地利用の具体化(箇所)						という活動、業務を行うことで					
			令和4年度実績		令和5年度予定		令和5年度実績		令和6年度予定		令和7年度予定		令和8年度予定	
			0		0		0		1		1		1	
	アウトカム成果指標1		地域交流拠点にふさわしい機能集積(種類)						という状態にしたい、成果を挙げたい					
			令和4年度実績		令和5年度予定		令和5年度実績		令和6年度予定		令和7年度予定		令和8年度予定	
			0		0		0		1		1		1	
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方		令和4年度にまちづくり計画を策定し、令和5年度には機能誘導に必要な手続き(都市計画の変更)を実施した。今後、各街区の土地利用の具体化に向けた検討・調整を進め、期待される機能集積を目指す。											
	アウトプット活動指標2		地域会議の開催件数						という活動、業務を行うことで					
			令和4年度実績		令和5年度予定		令和5年度実績		令和6年度予定		令和7年度予定		令和8年度予定	
			2		2		3		2		2		2	
	アウトカム成果指標2		地域活動の取組件数						という状態にしたい、成果を挙げたい					
			令和4年度実績		令和5年度予定		令和5年度実績		令和6年度予定		令和7年度予定		令和8年度予定	
			0		1		2		2		2		2	
	指標2の評価、未達理由、今後の考え方		令和4年度から継続的に地域会議を開催した結果、令和5年度にはその参加者が企画・運営する取組・イベントが初めて実施された。今後、地域が主体となったまちづくり活動の実現を目指し、必要な行政支援を行う。											
	今年度の見直し内容		なし											
来年度以降の方向性		低未利用地の利活用については、引き続き民間事業者のニーズ等を考慮しながら土地利用方策の検討を進めていく。また、今後、令和6年4月に設立されたまちづくり組織が主体となり、自主的なまちづくり活動が持続的に展開されるよう必要な行政支援を行う。												